



D.I. 質問箱

Q78

中高年以上でのクオンティフェロン検査の意義について教えてください。

A78

『感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き（改訂第3版）』では、「QFT検査の適用年齢の上限についての提案は控えるが、参考となる知見が得られるまでは、中高齢者（例えば50歳以上）には限定的な適用が望ましい。」という記載でした。

改訂第4版では、「現時点においてはQFT検査の適用年齢の上限を具体的に設定するための根拠となる研究データがないこと、及び潜在性結核症の治療の適用年齢については上限が撤廃されたことを踏まえると、中高齢者へのQFT検査の適用を制限する意義は乏しい。そこで4版では適用年齢の上限は設定せず、50歳以上であってもハイリスク・濃厚接触者などに対しては積極的に実施することを推奨することとした。ただし最近の感染曝露とは関係のないQFT陽性の存在に留意し、事後対応を慎重に行う必要がある。」とされています。

参考資料:感染症に基づく結核の接触者健康診断の手引き(改訂第4版)

お問合せ：学術データインフォメーション(D.I.)課まで
0120-14-8734 (フリーダイヤル) / 082-247-4325 (ダイヤルイン)



きょうちゅうボール

私は今、古本屋で購入した『アポトーシスとは何か? ～細胞の自殺～』という本を読んでいます。アポトーシスとは「遺伝子にプログラムされた細胞の自殺」のことで、細胞社会の中で自分の役割を果たし終えた細胞や正常に働かなくなった細胞などは、周囲に迷惑をかけないように、自分から静かに消えてゆく(自殺する)というものです。

さらに驚いたのは、人間の体を守るために誕生した免疫担当細胞のうちの実に95%はその機能が合格レベルに達せず、アポトーシスで取り除かれているそうです。つまり、残り5%のエリート細胞が私たちの体を守ってくれていることになります。古本とはいえ、その内容は驚きの連続です。

私の「読書の秋」は、この1冊の古本で「カルチャーショックの秋」となっています。

熊川 良則 (広報委員)

広報委員

曾我部 俊二 / 濱川 以行 / 熊川 良則 / 河本 圓 / 渡川 美弥子 / 初岡 博 / 中本 啓太

